

大規模災害への対応力強化 ～流域治水の推進～

要望内容

1. 直轄事業予算の重点配分【課題①】

○窪田遊水地の早期完成、三代川遊水地の早期工事着手、目安・唐院遊水地の早期事業着手

2. 貯留機能保全区域の指定など流域治水を実践している自治体に対する予算の重点配分【課題②④】

【国土交通省】

3. 緊急浚渫推進事業の適用範囲拡大及び継続的な支援【課題③】

【総務省】 【国土交通省】

○自治体が管理する雨水貯留浸透施設や防災調整池、治水利用ため池

4. 貯留機能のある農地保全（＝貯留機能保全区域）に向けた営農支援拡大【課題⑤】

【農林水産省】 【国土交通省】

○貯留機能保全区域を対象に交付される新たな補助制度の創設、防災・減災地域共同活動支払交付金の拡充

現状・課題

～自然的条件より、河川改修などの「ながす対策」だけでなく、流域全体での対策が必要～

自然的条件

- 奈良盆地に降った雨は全て大和川に集まり、「亀の瀬」と呼ばれる狭窄部を抜けて大阪湾へ流下
- 大和川のボトルネックとなっている亀の瀬狭窄部を拡げると大阪平野の洪水リスクが高まるため、今すぐ、亀の瀬を拡げることは難しい状況

➡ 奈良県では流域治水の推進が不可欠



外水氾濫による課題

【課題①】



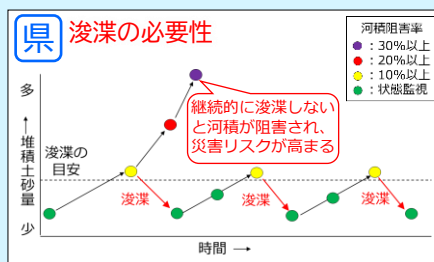
- ・大和川沿いでは浸水被害が頻発
- ・R5年度にはJR路線内へ溢水し、2日間にわたり運休

【課題②】



- ・未改修区間で破堤
- ・河川改修率は約33%

【課題③】



- ・河積阻害となる堆積土砂は災害リスクが高まる
- ・治水機能維持のため、継続的な浚渫が不可欠

内水氾濫による課題

【課題④】



- ・内水氾濫が頻発
- ・必要容量に対する整備率は約26%
- ・貯留施設の機能低下防止のため、継続的な浚渫が不可欠

【課題⑤】



- ・農地が失われると周辺家屋に浸水被害が及ぶ恐れ

大規模災害への対応力強化 ～流域治水の推進～

取組

～奈良県では、流域全体で治水対策に取り組んでいます～

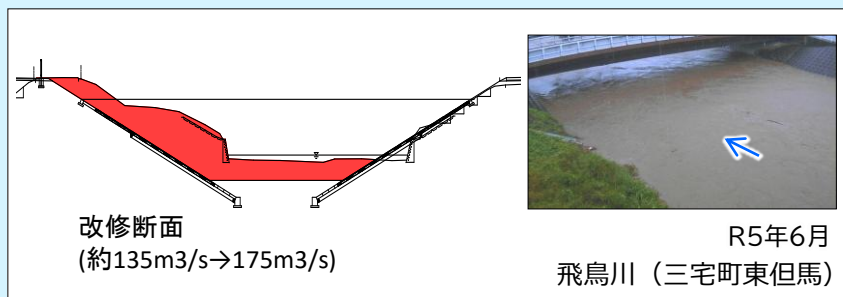


- ・ 窪田遊水地はR9年度運用開始を予定
- ・ 三代川遊水地は、奈良県土地開発公社による用地買収（R5年度完了）



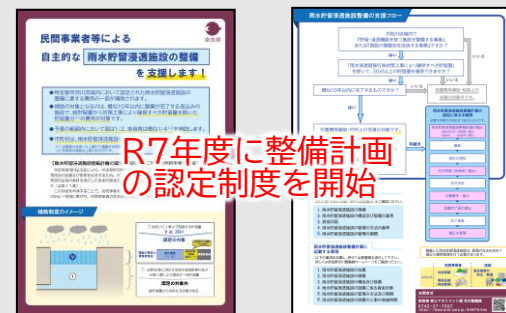
県【課題②③】20河川26工区で河川改修を推進

- 5年6月の豪雨では、浸水被害の発生したH29年10月と同程度の降雨量を観測
河川改修済区間では、**約80cm水位が低減し、浸水被害が軽減**



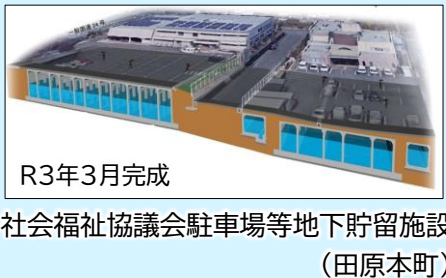
民間【課題①②④】民間事業者も貯留対策を推進

- 全国初の雨水貯留浸透施設整備計画の認定に向け、事業者と協議中



市町【課題④】内水貯留施設が7箇所完成、14箇所では整備中

- 貯留対策が進む市町では内水被害軽減に大きな効果



- ・ 田原本町では、R5年6月に初めて貯留施設が稼働し内水被害が解消
- ・ 周辺住民からは感謝の声
「今回の雨で貯留施設の整備効果を実感。整備いただいたことに感謝」

全国初

住民

【課題⑤】貯留機能保全区域を全国初指定 (川西町・田原本町:R6.7、大和郡山市:R6.12) R7年度に指定区域を更に拡大

